

株主のみなさまへ

第64期 営業のご報告

2009年4月1日～2010年3月31日

HOUSE FOODS REPORT





企業理念

食を通じて、  
家庭の幸せに役立つ

コーポレートメッセージ

『おいしさとやすらぎを』

株主のみなさまには日頃より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。  
2010年3月期の事業の概況をご報告させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

主力のルウカレー製品等が売上を伸ばいたしましたものの、飲料製品が苦戦し、連結売上高は減収となりました。

当連結会計年度におけるわが国経済は、景気に下げ止まり感が出てきておりますが、雇用情勢を反映した所得環境の悪化が続き、全般的には厳しい状況で推移しました。生活関連分野では、デフレ傾向は未だ根強いものがあり、店頭での価格競争は依然激しさを増しております。

このような状況のなか、当社グループは、当連結会計年度より3カ年の第三次中期計画をスタートいたしました。第三次中期計画では、グループの成長を牽引する事業と、当社の強みを活かして収益の維持・拡大を図る事業を区分し、経営資源を適切に配分するなかで、成長シナリオの再構築と実現を図り、企業価値の一層の向上に取り組んでおります。

売上面におきましては“嵐プレミアムナイトご招待キャンペーン”などの販売促進活動や広告活動の効果もあり、主力のルウカレー製品やレトルトカレー製品が売上を伸ばいたしましたほか、家庭内での調理頻度の高まりに伴い、スパイス製品が好調に推移しました。また、お客さまとの接点拡大に向けた新たなチャネルの開拓や、将来の市場拡大を見込んだ新製品の積極的な投入により、「ウコンの力」をはじめとする健康食品が引き続き高いご支持をいただきました。しかしながら、「六甲のおいしい水」や子会社ハウスウェルネスフーズ㈱の飲料製品が、厳しいマーケット環境に加え、夏場の天候不順の影響を受け苦戦を強いられましたほか、シチュー製品も、競合激化によるカップタイプ製品の落ち込みなどにより、前年実績を下回りました。以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は2,206億22百万円と前期比0.9%の減収となりました。

連結営業利益、連結経常利益、連結当期純利益は増益となりました。

一方利益面では、主力製品の増収効果に加え、原材料価格が安定していたことや引き続きコストダウンに注力しましたことなどから、連結営業利益は109億64百万円、前期比7.5%の増益、連結経常利益は121億87百万円、前期比10.9%の増益、連結当期純利益は48億20百万円、前期比2.0%の増益となりました。

期末配当金は、1株につき11円とさせていただきます。

当期末の配当金につきましては、1株につき11円とし、中間配当金の11円とあわせて、年間計22円とさせていただきます。当社グループは、株主のみなさまへの利益還元を経営の最重要課題の一つと位置づけ、業績・事業計画などを総合的に勘案し、安定的な配当を実施してまいります。

2011年3月期は連結営業利益111億円をめざしてまいります。

2011年3月期の見通しでございますが、活発なアジア経済を背景として、外需には回復の兆しが見られますものの、原材料価格上昇の懸念や高水準を維持する失業率などもあり、国内の景気動向は引き続き予断を許さない状況で推移するものと思われまます。生活関連業界におきましては、不透明な景気を反映した生活防衛意識の浸透による買い控えや商品の低価格化など、厳しい市場環境が今しばらく続くものと予想されます。

このような状況下、私たちの努力や経営資源を第三次中期計画における注力分野に集中するべく、1983年よりミネラルウォーターのパイオニアとして多くのおみなさまにご支持いただきました「六甲のおいしい水」のブランドならびにミネラルウォーター事業を、本年5月31日をもって、アサヒ飲料㈱様に譲渡いたしました。

今後は、第三次中期計画の狙いでもある「収益基盤の強化」と将来の成長の糧となる「新しい需要の創造」に、より一層取り組むことにより、今まで以上に家庭の幸せに役立つ会社になれるよう、前進してまいります。

2011年3月期の業績につきましては、連結売上高は2,230億円(前期比1.1%増)、連結営業利益は111億円(前期比1.2%増)、連結経常利益は122億円(前期比0.1%増)、連結当期純利益は62億円(前期比28.6%増)を予定しております。また、2011年3月期の配当金につきましては、年間で1株につき22円を予定しております。

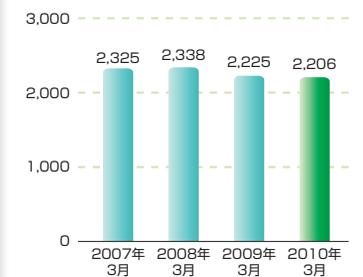
何卒株主のみなさまにおかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

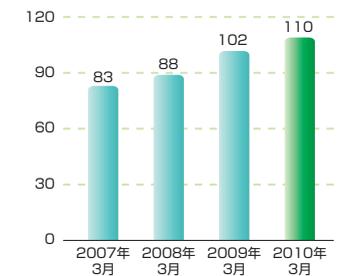
取締役社長 浦上博史

単位：億円

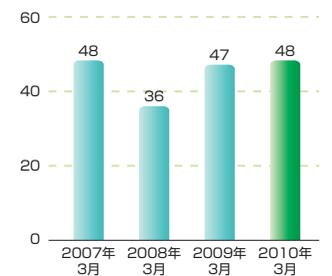
連結売上高



連結営業利益



連結当期純利益



### 食料品

ルウカレー製品は、景気停滞を背景としたお客さまの内食回帰傾向が追い風となるなか、「バーモントカレー」や「ジャワカレー」が効果的な販促・広告活動に加え、カロリー数を減らした“新・濃縮加熱製法”採用によるフレッシュアップがスムーズに受け入れられ、順調に推移しました。また、レトルトカレー製品は、値頃感のある「咖喱屋カレー」が好調であったほか、新しい食シーンをご提案した「めざまるカラダ朝カレー」も、大きなご支持をいただきました。



スパイス製品は、「ねりスパイス」が好調な伸びを示したほか、使い切りタイプの新製品「ギャバンミニパック」が売上の拡大に寄与しましたことから、増収となりました。



シチュー製品は、主力の「北海道シチュー」が前年並みの売上を確保しましたものの、「カップシチュー」が競合の激化で低調であったことや、「北海道チャウダー」が前年好調の反動もあり減収となったことが影響し、前年実績を下回りました。一方、カップタイプのスープ製品「スープdeお

こげ」は、バラエティ製品の発売もあり、好調な売上を示しました。



袋麺製品は、ロングセラー商品「うまかっちゃん」が、九州地区を中心に展開した発売30周年キャンペーンが奏功し、売上を伸ばいたしました。



健康食品は、ウコンの健康成分であるクルクミンを増量した新製品「ウコンのカ スーパー」を最需要期の年末に向けて投入しましたほか、本年2月に、女性を足元からサポートする軽快ウォーク飲料「SASSO」を発売するなど、製品ラインアップの強化を図ってまいりました結果、増収となりました。また、子会社ハウスウェルネスフーズ(株)は、競合の激しい飲料市場にあって、夏場の天候不順の影響等もあり、全般的に苦戦を強いられました。



スナック製品は、主力の「とんがりコーン」が安定した売上を確保したことに加え、当社独自の2段こんがり製法を用いた「こんがりポテト」が好調であったことから、前年実績を上回りました。



業務用製品は、外食業界の厳しい市場環境を背景に主力製品が伸び悩むなか、総菜・ベーカリーなどの中食分野やケアフードマーケットへの製品導入を図ってまいりましたが、全体では減収となりました。



### 運送・倉庫業他

運送・倉庫事業は、子会社ハウス物流サービス(株)が、当社製品の売上動向の影響などにより、グループ内での物流業務の受託実績が減少いたしました。グループ外企業の物流業務の受託が進みましたことなどから、前年実績を上回りました。

海外事業では、米国の豆腐事業は、景気低迷や競争激化が業績に波及しましたものの、東部・中西部地区での新規取扱の拡大が進んだことにより、売上を伸ばいたしました。中国のルウカレー事業は、昨年7月に生産工場を移転いたしました。移転後に積極的な販売活動を再開し売上拡大に注力してまいりました結果、特に業務用製品の拡販が進み、増収となりました。また、カレーレストラン事業も、台湾・韓国で積極的な店舗展開を進めましたことなどから、前年実績を上回りました。



当連結会計年度の食料品の売上高は2,087億68百万円、前期比1.3%の減収、営業利益は143億75百万円、前期比4.3%の増益となりました。

当連結会計年度の運送・倉庫業他の売上高は118億54百万円、前期比7.4%の増収、営業利益は5億69百万円、前期比75.6%の増益となりました。



全国14地区で「ファミリーウォーク」開催

ハウス食品では、日本ウォーキング協会と地元ウォーキング協会の協力を得て、家族や友人達でウォーキングを楽しんでいただくイベントを開催いたしました。参加者のみなさまには、豊かな自然のなかでウォーキングを堪能しながら、健康の大切さを感じていただきました。



「30周年、ありがとんこつ、うまかっちゃん」キャンペーン

1979年に発売した「うまかっちゃん」は、とんこつ味の袋ラーメンとして、地元九州のみなさまを中心に大変ご好評をいただいております。この度、30周年を迎え、お客さまへの感謝の気持ちをこめて、さまざまなプロモーション活動を展開いたしました。



「野菜ソムリエのカレーレシピ」新発売

野菜ソムリエと共同で開発した、野菜のおいしさを味わうカレー



「こくまるプラス クリームシチュー」新発売

こくまるシチューシリーズに、おいしさそのままのカロリーオフタイプ新登場



「ギャバンミニパック」新発売

使い切れずに余らせて困ることがない小容量タイプの洋風スパイスシリーズ



「ニュートリシステム J-ダイエット」事業開始

米国ニュートリシステム社とライセンス契約を締結し、食事代替型の製品(30種類)とカウンセリングなどのユーザーサポートをセットにした、ダイエットプログラム「ニュートリシステム J-ダイエット」を、パイロットマーケティングとして首都圏でスタートいたしました。(2010年5月より全国展開)



「バーモントカレー」「ジャワカレー」フレッシュアップ

使用する油脂量を減らしながら、おいしさを凝縮し、じっくり加熱した「新濃縮加熱製法」で、主カルウカレーがよりおいしく、よりヘルシーに



「So-Yah!」新発売

ハウスフーズアメリカ社は、豆腐を食べる習慣のないお客さまを対象に、日常的なメニューで豆腐を食べていただけるよう、豆腐しらたきヌードルとソースをセットにした製品を新発売



「食と農と環境の体験教室」開催

ハウス食品では、「食」・「環境」・「教育」の3つをテーマに、「食と農と環境の体験教室」を全国3カ所で開催いたしました。

参加いただいたご家族には、農業調理体験、自然生物とのふれあい、収穫した野菜でのカレー作りなどを通じて、食と農や、自然環境の大切さを体験していただきました。



「ハウス食品プレミアムナイト・嵐 in 東京ディズニーシー®」開催

東京ディズニーリゾートのオフィシャルスポンサーであるハウス食品ならではの夢のコラボ企画として、「ハウス食品プレミアムナイト・嵐 in 東京ディズニーシー®」ご招待キャンペーンを実施。11月20日に東京ディズニーシー®を貸し切って行われた嵐とディズニーキャラクターの夢の共演に、約7,000名の当選者のみなさまには大満足いただきました。



4月

2009年

5月

6月

「レトルトタイプ ジャワカレー ベジキーマカレー」新発売

さわやかな辛さとコクのあるジャワカレーソースでスパイスに仕上げたベジタブルキーマカレー



7月

8月

「スープdeおこげプチパック」発売

マグカップ等の容器にあけてお湯を加えるだけで、カリッと揚がった香ばしさとモチモチとした食感の両方を楽しめる



9月

10月

「ウコンのカ スーパー」新発売

「秋ウコンエキス」と「紫ウコンエキス」、2種類のウコンエキス使用



11月

12月

2010年

1月

2月

3月

## ハウス食品グループの健康食品事業

～第三次中期計画の「成長ドライバー」と位置づけ、経営資源を集中投下～

### 健康食品へのスパイス活用

当社は1913年に薬種問屋として創業しておりますが、その当時扱っていた和漢生薬は、カレー粉に含まれるスパイスと共通しているものも多く、そこからカレーの研究開発がスタートしました。

スパイスの研究から始まった歩みは、その後、食品の研究・開発に発展し、今ではカレーやシチューはもちろんのこと、健康食品などの幅広い分野においてお客さまの食生活と健康に貢献しています。最近では「ウコンの力」、「メガシャキ」など、スパイスの有用成分を活用した健康食品が、お客さまからご支持をいただいております。当社では、このような健康食品事業を、経営資源を集中投下する「成長ドライバー」と位置づけ、強化を図っております。



### “ウコン”へのこだわり

当社では、研究・開発拠点として最新の技術と設備を誇る「ソマテックセンター」で、食材の調査・研究や、製品の品質・規格・配合の設定等を行っておりますが、その他にも、各種食材に秘められている、まだまだ知られていない自然の力を引き出すため、自然素材の研究・開発にも力を入れています。

特に、当社製品の原料として欠かせない“ウコン”については、産地や種類の異なるウコンを栽培し、日々研究を続けております。



ハウス食品の研究・開発拠点であるソマテックセンター



研究風景



ソマテックセンターの長年の研究成果から生まれた「天然効果® 活性ウコン」(通販限定)

## 『ウコンの力』開発担当者インタビュー

### “苦いウコン”を“おいしいドリンク”へ

ウコンは、当社の主力であるカレーには欠かせない原料であり、ソマテックセンターでウコンに関する研究が長年続けられていました。ウコンには健康に寄与するさまざまな機能性があるといわれており、錠剤製品が一部のコアユーザーの方々に愛用されていましたが、一般的に“苦い”というイメージがあったため、あまり広がっていませんでした。

日本では、サプリメントよりも栄養ドリンクの方が馴染みが深いこともあり、ウコンをドリンクとして飲みやすくすることで、新しい需要を創造することができるのではないかと考えました。

そこで、まずは栄養ドリンクとウコンの粉末を混ぜることから始め、最終的に当社の技術によって、苦いウコンを飲みやすいおいしいドリンク製品にすることができました。また当時、当社では初めてとなる臨床試験を実施して機能性を検証し、そのデータをもとに、原材料の配合を調整しました。

このような地道な努力と新しいチャレンジが『ウコンの力』の誕生に繋がったと思います。

### “ウコンはハウス”と認められたい

『ウコンの力』も発売から6年が経ち、「カシスオレンジ」、「スーパー」などのバラエティ製品の発売、米国やアジアでの展開等、新しい局面を迎えています。ウコンを日本一、ひょっとしたら世界一使用しているメーカーとして、今後はドリンクにこだわらず、さまざまな製品形態にトライしていきたいと考えています。“ウコンはハウス”とお客さまに認めていただくことが、今の私の目標です。



マーケティング本部健康食品部  
ブランドマーケティングマネージャー  
相馬 修

## ハウスウェルネスフーズ(株)の技術力

『C1000ビタミンレモン』をはじめとする「C1000シリーズ」を販売しているグループ会社のハウスウェルネスフーズ(株)では、“ビタミン”を代表とするさまざまな技術力を保有しており、健康食品の開発に活かしています。

研究分野においても、昨年12月に乳酸菌加熱菌体(HK L-137)によるインフルエンザウイルスへの感染防御効果を日本免疫学会で発表しており、独自の研究成果をあげております。

その他にも、ビタミンB群のひとつである葉酸についての研究では女子栄養大学と産学連携を合意し、製品の共同開発を進める等、技術力に一層磨きをかけ、ハウス食品グループの健康食品事業の拡大を図ってまいります。



連結貸借対照表

単位:百万円

	当 期 (2010年3月31日現在)	前 期 (2009年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	102,507	99,916
固定資産	129,420	128,310
有形固定資産	62,808	64,634
無形固定資産	9,411	13,784
投資その他の資産	57,201	49,892
資産合計	231,927	228,226

負債の部

流動負債	39,276	40,357
固定負債	10,023	9,347
負債合計	49,299	49,704

純資産の部

株主資本	180,985	178,602
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,868	23,868
利益剰余金	148,494	146,107
自己株式	△ 1,326	△ 1,322
評価・換算差額等	1,290	△ 406
その他有価証券評価差額金	2,582	941
為替換算調整勘定	△ 1,292	△ 1,347
少数株主持分	353	326
純資産合計	182,628	178,522
負債純資産合計	231,927	228,226

連結損益計算書

単位:百万円

	当 期 (2009年4月～ 2010年3月)	前 期 (2008年4月～ 2009年3月)
売上高	220,622	222,549
売上原価	118,622	122,587
売上総利益	102,000	99,962
販売費及び一般管理費	91,036	89,761
営業利益	10,964	10,201
営業外収益	1,321	1,407
営業外費用	97	615
経常利益	12,187	10,993
特別利益	278	35
特別損失	1,825	1,166
税金等調整前当期純利益	10,640	9,862
法人税等	5,796	5,203
少数株主利益又は少数株主損失(△)	24	△ 67
当期純利益	4,820	4,726

連結キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	当 期 (2009年4月～ 2010年3月)	前 期 (2008年4月～ 2009年3月)
営業活動によるキャッシュ・フロー (うち減価償却費)	15,813 (6,102)	16,525 (6,118)
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,129	△ 3,343
財務活動によるキャッシュ・フロー (うち配当金の支払額)	△ 2,771 (△ 2,411)	△ 2,432 (△ 2,415)
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 23	△ 459
現金及び現金同等物の増加額	2,891	10,291
現金及び現金同等物の期首残高	41,680	31,389
現金及び現金同等物の期末残高	44,570	41,680

連結経営指標

自己資本当期純利益率(ROE) 単位:%



自己資本比率 単位:%



売上原価率 単位:%



売上高営業利益率 単位:%



一株当たり当期純利益 単位:円



貸借対照表

単位:百万円

	当 期 (2010年3月31日現在)	前 期 (2009年3月31日現在)
<b>資産の部</b>		
流動資産	88,182	80,066
固定資産	137,890	131,507
有形固定資産	38,116	39,361
無形固定資産	2,549	2,834
投資その他の資産	97,225	89,312
資産合計	226,072	211,573
<b>負債の部</b>		
流動負債	35,908	29,927
固定負債	3,196	1,531
負債合計	39,103	31,458
<b>純資産の部</b>		
株主資本	184,314	179,107
資本金	9,948	9,948
資本剰余金	23,815	23,815
利益剰余金	151,876	146,665
自己株式	△ 1,326	△ 1,322
評価・換算差額等	2,655	1,008
その他有価証券評価差額金	2,655	1,008
純資産合計	186,968	180,115
負債純資産合計	226,072	211,573

損益計算書

単位:百万円

	当 期 (2009年4月～ 2010年3月)	前 期 (2008年4月～ 2009年3月)
売上高	161,680	161,882
売上原価	77,530	79,685
売上総利益	84,150	82,196
販売費及び一般管理費	71,618	70,244
営業利益	12,532	11,952
営業外収益	1,822	2,045
営業外費用	168	130
経常利益	14,186	13,867
特別利益	17	13
特別損失	1,576	1,420
税引前当期純利益	12,627	12,460
法人税等	5,001	5,030
当期純利益	7,626	7,429

サンハウス食品株式会社

レトルト食品の受託生産を推進

サンハウス食品(株)は、「カレーマルシェ」や「フルーチェ」などでおなじみのレトルト食品の専用工場です。お客さまの多様なニーズにお応えするために、年間で約300種類もの製品を生産しております。ハウスブランドのレトルト製品を製造する一方で、多品種小ロット生産の強みを活かし、町興しの一環としてさまざまな地域で取り組んでおられる、特産物などを使用した製品づくりを始めました。40年間培ったレトルト食品製造技術と細やかな営業活動により、地域活性化の一役を担うべく、ご当地カレーの受託生産を積極的に推進しています。今後は、カレー以外にもシチューやパスタソース等、幅広い商品化を図ってまいります。



[会社概要]

- 事業内容 家庭用ならびに業務用レトルト製品等の製造
- 本社所在地 愛知県江南市
- 設 立 1970年6月
- ISO9001、ISO14001認証取得

ハウス物流サービス株式会社

荷主さまに対する流通支援～3PLの取組

ハウス食品グループの物流業務を担うハウス物流サービス(株)では、保有する物流インフラやノウハウを有効活用し、荷主さまに対して物流コストの見直しや物流品質の向上、環境負荷の低減等のソリューションを提案しています。さらに、メーカーの物流機能業務を一括して請け負い(3PL)、配送・在庫管理からさまざまな物流課題の解決に向けて包括的なサービスを提供しています。今後も、「全体最適」の視点で荷主さまのサプライチェーンにおける課題を解決し、より高品質な物流サービスの実現をめざします。



鳴尾浜物流センター

[会社概要]

- 事業内容 運送・倉庫業
- 本社所在地 大阪府東大阪市
- 設 立 1970年8月
- ISO9001認証取得

3PL(サードパーティーロジスティクス)とは

荷主さまに物流改革を提案し、包括的に物流業務を受託することで、物流コストの削減やサービス向上を実現する取組。

会社概要

(2010年3月31日現在)

- ◆創業年月日 1913年11月11日
- ◆設立年月日 1947年6月7日
- ◆資本金 9,948,323,523円
- ◆事業内容 食品製造加工ならびに販売、その他
- ◆従業員数 2,152名
- ◆所在地 大阪本社 / 〒577-8520  
大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号  
TEL 06-6788-1231 (大代表)  
東京本社 / 〒102-8560  
東京都千代田区紀尾井町6番3号  
TEL 03-3264-1231 (大代表)

役員

(2010年6月25日現在)

- |           |   |        |   |
|-----------|---|--------|---|
| 取締役会長     | 小瀬 昉                                      | 常務執行役員 | 尾崎 俊郎<br>野村 孝志<br>田口 昌男<br>藤村 浩史<br>工東 正彦                                     |
| 取締役社長     | 浦上 博史                                     |        |   |
| 取締役専務執行役員 | 松本 恵司<br>井上 始<br>広浦 康勝                    | 執行役員   | 山口 守世<br>一柳 和文<br>青山 寛二<br>坂元 竜太<br>西田 太一<br>柴原 弘章<br>小池 章文<br>高木 敬一<br>巖本 一雄 |
| 取締役常務執行役員 | 溝渕 寛<br>藤井 豊明<br>加藤 浩                     |        |   |
| 取締役       | 山本 邦克                                     |        |   |
| 監査役       | 吉村 光央<br>伊藤 研三<br>由本 泰正<br>治郎丸 清志<br>三浦 勁 |        |   |

グループ会社

(2010年3月31日現在)

連結子会社 (16社)

●国内会社 ●海外会社

持分法適用関連会社 (5社) ●国内会社 ●海外会社

- |                     |                         |                    |
|---------------------|-------------------------|--------------------|
| ●株式会社デリカシェフ         | ●朝岡スパイス株式会社             | ●株式会社ヴォークス・トレーディング |
| ●サンハウス食品株式会社        | ●ハウスビジネスパートナーズ株式会社      | ●株式会社壱番屋           |
| ●ハウスウェルネスフーズ株式会社    | ●ハウスフーズホールディング USA Inc. | ●サンヨー缶詰株式会社        |
| ●ハウス物流サービス株式会社      | ●ハウスフーズアメリカ Corp.       | ●株式会社ジャワアグリテック     |
| ●株式会社ハウス食品分析テクノサービス | ●上海ハウス食品有限会社            | ●イチバンヤ USA Inc.    |
| ●ハウスあいファクトリー株式会社    | ●上海ハウスカレーココ壱番屋レストラン有限会社 |                    |
| ●サンサプライ株式会社         | ●台湾カレーハウスレストラン株式会社      |                    |
| ●ハイネット株式会社          | ●韓国カレーハウス株式会社           |                    |

株式の状況

(2010年3月31日現在)

発行済株式総数 110,878,734株  
発行可能株式総数 391,500,000株  
株主総数 50,974名  
1単元の株式数 100株

《2010年3月期配当金》

	1株当たり配当金
第2四半期末	11円00銭
期末	11円00銭
年間	22円00銭

大株主

(2010年3月31日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
ハウス興産株式会社	12,585,616	11.47
株式会社HKL	6,000,000	5.47
株式会社三井住友銀行	3,668,027	3.34
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,030,600	2.76
財団法人浦上食品・食文化振興財団	2,872,200	2.62
浦上 節子	2,734,569	2.49
味の素株式会社	2,693,543	2.45
日清食品ホールディングス株式会社	2,463,400	2.24
日本生命保険相互会社	2,306,010	2.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,090,200	1.90

(注)持株比率は、自己株式(1,112,105株)を控除して算出しております。

株主優待

毎年3月31日現在、当社株式100株以上を所有されている株主さまを対象に、下記の基準により当社グループの製品詰合わせを贈呈いたします。

100株以上1,000株未満

[1,000円相当の詰合わせ]



1,000株以上

[3,000円相当の詰合わせ]

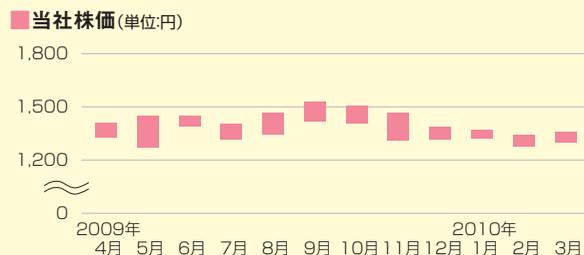


※2010年3月31日現在の株主さまに贈呈した株主優待製品です。

## 株主メモ

- **事業年度** 4月1日から翌年3月31日
- **中間配当制度** あり
- **定時株主総会** 毎年6月開催
- **株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関** 住友信託銀行株式会社  
大阪市中央区北浜四丁目5番33号
- **株主名簿管理人事務取扱場所** 住友信託銀行株式会社 証券代行部  
大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- **【郵便物送付先】**
- **【電話照会先】** ☎ 0120-176-417
- **公告の方法** 電子公告により、当社ホームページ <http://housefoods.jp> に掲載して行います。  
ただし、電子公告を行えない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。
- **上場証券取引所** 東京・大阪
- **証券コード** 2810
- **ハウス食品株主さま窓口** ハウス食品株式会社 総務・法務部 総務課  
〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号  
電話 (06) 6788-1214

## 株価・出来高の推移 (東京証券取引所)



## ハウス食品株式会社

〒577-8520 大阪府東大阪市御厨栄町一丁目5番7号  
電話 (06) 6788-1231 (代表)  
<http://housefoods.jp>

## ○株式に関するお手続きについて

株式に関するお手続きのお問い合わせ先は、下記のとおりです。

### 証券会社の口座に記録された株式

#### 【お手続き、ご照会の内容】

#### 【お問い合わせ先】

- 単元未満株式の買取請求
- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更

口座を開設されている  
証券会社

- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

住友信託銀行株式会社  
証券代行部

☎ 0120-176-417

### 特別口座に記録された株式

#### 【お手続き、ご照会の内容】

#### 【お問い合わせ先】

- 単元未満株式の買取請求
- 特別口座から証券口座への振替請求
- 届出住所・姓名などのご変更
- 配当金の受領方法・振込先のご変更
- 郵送物の発送と返戻に関するご照会
- 支払期間経過後の配当金に関するご照会
- 株式事務に関する一般的なお問い合わせ

住友信託銀行株式会社  
証券代行部

☎ 0120-176-417

#### 特別口座について

株券電子化実施(2009年1月5日)に際し、証券会社等に口座を開設し、証券保管振替機構(ほふり)に株券を預託されなかった株主さまのお名前、ご住所などのデータは当社が住友信託銀行に開設した「特別口座」に記録されております。



この報告書は、FSC認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用して印刷しています。